

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	渋谷ファッション&アート専門学校
設置者名	学校法人田中千代学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
服飾専門課程	ファッション総合科	夜・通信	3,435 時間	$80 \times 2 = 160$ 時間	
文化専門課程	美術表現科	夜・通信	1,020 時間	$80 \times 1 = 80$ 時間	
	造形表現科	夜・通信	1,020 時間	$80 \times 1 = 80$ 時間	
	表現研究科	夜・通信	1,020 時間	$80 \times 1 = 80$ 時間	
建築専門課程	建築クリエイター科	夜・通信	2,100 時間	$80 \times 2 = 160$ 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HPにて公表している (掲載 https://www.shibuya-and.tokyo/outline/disclosure/)

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	渋谷ファッション&アート専門学校
設置者名	学校法人田中千代学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HPにて公表している (掲載 https://www.shibuya-and.tokyo/outline/disclosure/)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	アパレル会社社長	2025.6.1 ～ 2027.5.31	教育内容と事業運営に対する提言
非常勤	スタイリスト	2025.6.1 ～ 2027.5.31	教育の内容に対する提言
非常勤	寝装品会社常務	2025.6.1 ～ 2027.5.31	事業運営に対する提言
非常勤	商業施設運営会社常務	2025.6.1 ～ 2027.5.31	事業運営に対する提言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	渋谷ファッション&アート専門学校
設置者名	学校法人田中千代学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
【作成について】 シラバス作成について、課程ごとに、校長、副校長、担当教員が現行授業科目の検証、改善などの審議を行い、次年度の各課程全体の授業計画、カリキュラム編成を作成する。学校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等の連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い教育課程の編成に活かすことを目的として教育課程編成委員会も設置しており、教育課程編成委員会での審議結果を活用し、教育活動の質の向上に努めている。 各授業を担当する教員は、授業計画、カリキュラム編成に基づき、到達目標、授業の内容、授業計画(授業ごとの学習内容含む)、成績評価の方法、教材等記載したシラバスを作成する。 【時期について】 翌年度の授業計画は、11月～1月に担当教員が作成し、3月の理事会時の議案で事業計画が承認されることで正式決定する。決定後、各課程、学科ごとに冊子を作成し、学内配布とともに一般閲覧に供する。	
授業計画書の公表方法	HPにて公表している (掲載 https://www.shibuya-and.tokyo/outline/disclosure/)
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
各授業科目においては、シラバス記載の「成績評価の方法」に基づき、授業科目の学習成果(成績)、課題提出状況、出席状況の要件を満たしていれば単位取得。「卒業・進級判定会議」の規程に定められた会議構成員の参加のもと「卒業・進級判定会議」を開催し、出席率、取得単位、所見を記載した卒業・進級判定シートを用い、当該学生の履修認定を確認した後、校長が認定する。	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本校の内規において、評価基準及びG P Aの計算式を設定している。

可否区分	評 価	評 点	グレードポイント
合 格	A	100～80 点	3
	B	79～70 点	2
	C	69～60 点	1
不合格	D	59 点以下	0

*GPA の計算式

$(A \text{ の修得単位数} \times 3 + B \text{ の修得単位数} \times 2 + C \text{ の修得単位数} \times 1) \div$
総履修登録単位数 (D の単位数を含む)

客観的な指標の
算出方法の公表方法

HP にて公表している

(掲載 <https://www.shibuya-and.tokyo/outline/disclosure/>)

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業の認定に関しては、「卒業・進級判定会議規程」にそって、評価対象年度の後期授業終了後、各課程において学生ごとの科目別成績判定の完了後に規程に定められた会議構成員の参加のもと「卒業・進級判定会議」を開催する。当該学生が課程修了者であることを確認した後、校長が卒業を認定する。

卒業要件は、各課程とも年間で定められた単位を取得することであり、各授業科目の単位認定要件は、学生配布のキャンパスガイドに記載し学生に周知している。

課程ごとの目標それぞれであるが、学校の教育方針（基礎力を着実に身に付け、応用力を積み重ね、生身の体験、アナログ体験を欠かすことなく、コミュニケーション力、実践的な学びを大切に、出席を重視し授業をきめ細やかに）にそった授業科目の履修を認定することで、学修成果の達成とみなし卒業の認定としている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

HP にて公表している

(掲載 <https://www.shibuya-and.tokyo/outline/disclosure/>)

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	渋谷ファッション&アート専門学校
設置者名	学校法人田中千代学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	HPにて公表している (掲載 https://www.shibuya-and.tokyo/outline/disclosure/)
収支計算書又は損益計算書	HPにて公表している (掲載 https://www.shibuya-and.tokyo/outline/disclosure/)
財産目録	HPにて公表している (掲載 https://www.shibuya-and.tokyo/outline/disclosure/)
事業報告書	HPにて公表している (掲載 https://www.shibuya-and.tokyo/outline/disclosure/)
監事による監査報告（書）	HPにて公表している (掲載 https://www.shibuya-and.tokyo/outline/disclosure/)

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
服飾・家政関係		服飾専門課程	ファッション総合科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼	2, 220 単位時間／単位	60 単位時間 ／単位	195 単位時間 ／単位	3, 675 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
			単位時間／単位					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
50人		32人	4人	4人	14人	18人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3の1の記載内容を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3の3記載内容を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3の4記載内容を参照
学修支援等
（概要） 担任制として、担任教員が出席状況、課題提出状況などを把握し、学生とのコミュニケーションを細かく取るようにしている。学校独自の奨学金制度を設け、経済的な面でも学びやすい環境を整えている。学外活動も可能な範囲で行い、資格取得に関しては対策講座の開設等、指導体制を整えている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
8人 (100%)	0人 (0%)	5人 (62.5%)	3人 (37.5%)
（主な就職、業界等） アパレル企業の販売、総合職等			
（就職指導内容） 学生、担任、就職担当者の3者面談の実施。就職活動に必須なポートフォリオ作成のための授業時間数の拡大。企業関係者、卒業生によるセミナーの開催。ビジネスマナーの授業やインターシップ研修の実施。			

(主な学修成果(資格・検定等)) パターンメイキング技術検定、ファッションビジネス能力検定、 ファッション色彩能力検定、パーソナルカラー検定
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
32人	8人	25%
(中途退学の主な理由) 進路変更、体調不良等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による面談など学生とのコミュニケーションの機会を増やし、学生の孤立を防ぐ。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化専門課程	美術表現科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	1, 0 2 0 単位時間／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	1, 020 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
4 0 人		3 6 人	3 3 人	6 人	3 1 人	3 7 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 様式第 2 号の 3 の 1 の記載内容を参照	
成績評価の基準・方法	
（概要） 様式第 2 号の 3 の 3 記載内容を参照	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 様式第 2 号の 3 の 4 記載内容を参照	
学修支援等	
（概要） 放課後や長期休業期間に教室開放時間を設け、制作の時間と場所を提供している。 校内のギャラリーを使用しての外部への作品発表等を支援している。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3 7 人 (81. 1%)	3 0 人 (46. 4%)	1 人 (2. 7%)	6 人 (16. 2%)
（主な就職、業界等） 不動産関係			
（就職指導内容） 学生の要求に応じて、適宜に対応			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
40人	4人	10%
(中途退学の主な理由) 体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による面談など学生とのコミュニケーションの機会を増やすことで学生それぞれの状況を把握し、その学生に応じた指導を実施している。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
文化・教養		文化専門課程	造形表現科					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
1 年	昼	1, 0 2 0 単位時間／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	1, 020 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
			単位時間／単位					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
4 0 人		3 9 人	3 8 人	6 人	3 1 人	3 7 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 様式第 2 号の 3 の 1 の記載内容を参照	
成績評価の基準・方法	
（概要） 様式第 2 号の 3 の 3 記載内容を参照	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 様式第 2 号の 3 の 4 記載内容を参照	
学修支援等	
（概要） 放課後や長期休業期間に教室開放時間を設け、制作の時間と場所を提供している。 校内のギャラリーを使用しての外部への作品発表等を支援している。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3 6 人 (100%)	2 7 人 (71.9%)	0 人 (0%)	9 人 (28.1%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容）			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
40人	3人	7.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による面談など学生とのコミュニケーションの機会を増やすことで学生それぞれの状況を把握し、その学生に応じた指導を実施している。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
文化・教養		文化専門課程	表現研究科					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
1 年	昼	1, 0 2 0 単位時間／単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	1,020 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	
			単位時間／単位					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
4 0 人		4 0 人	2 3 人	6 人	3 1 人	3 7 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 様式第 2 号の 3 の 1 の記載内容を参照	
成績評価の基準・方法	
（概要） 様式第 2 号の 3 の 3 記載内容を参照	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 様式第 2 号の 3 の 4 記載内容を参照	
学修支援等	
（概要） 放課後や長期休業期間に教室開放時間を設け、制作の時間と場所を提供している。 校内のギャラリーを使用しての外部への作品発表等を支援している。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
4 0 人 (100%)	3 1 人 (77.5%)	2 人 (5%)	7 人 (17.5%)
（主な就職、業界等） レジャー関係			
（就職指導内容） 学生の要求に応じて、適宜に対応			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
40人	0人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による面談など学生とのコミュニケーションの機会を増やすことで学生それぞれの状況を把握し、その学生に応じた指導を実施している。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		建築専門課程	建築クリエイター科					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1, 980 単位時間／単位	150 単位時間 ／単位	1, 140 単位時間 ／単位	1, 020 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
			単位時間／単位					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人		15人	8人	3人	10人	13人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 様式第2号の3の1の記載内容を参照	
成績評価の基準・方法	
（概要） 様式第2号の3の3記載内容を参照	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 様式第2号の3の4記載内容を参照	
学修支援等	
（概要） 担任制として、担任教員が出席状況、課題提出状況などを把握し、学生とのコミュニケーションを細かく取るようにしている。学校独自の奨学金制度を設け、経済的な面でも学びやすい環境を整えている。学外活動も可能な範囲で行い、資格取得に関しては対策講座の開設等、指導体制を整えている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） 学生個々に応じた面談及び指導の実施。			
（主な学修成果（資格・検定等））			

（備考）（任意記載事項） 建築クリエイター科は2025年度開設

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
14人	5人	36%
（中途退学の主な理由） 体調不良、進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任による面談など学生とのコミュニケーションの機会を増やす、オンライン授業等の対応もとっている。		

②学校単位の情報

a) 「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
ファッション総合科	170,000 円	600,000 円	365,000 円	
美術表現科	90,000 円	390,000 円	280,000 円	
造形表現科	90,000 円	390,000 円	280,000 円	
表現研究科	90,000 円	390,000 円	280,000 円	
建築クリエイター科	170,000 円	800,000 円	360,000 円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） HPにて公表している （掲載 https://www.shibuya-and.tokyo/outline/disclosure/ ）
第三者評価の基本方針（実施方法・体制）
学校関係者評価の結果の公表をもって代えることとする。 【評価項目】 専修学校専門課程の目的および学修成果、教育課程および教育方法、教育上の基本となる組織、学修環境、学生定員管理および経営管理、内部質保証 【評価委員の構成】 委員定数：5名 委員の選出区分：関連業界等関係者

【評価結果の活用法】 評価結果は理事会、評議員会、学校運営会議等で報告され、次年度以降の改善に取り組んでいる。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
大学院教授	2025. 11. 1～ 2026. 10. 30	関連業界等関係者
フリーランスデザイナー	2025. 11. 1～ 2026. 10. 30	関連業界等関係者
業界関係団体理事	2025. 11. 1～ 2026. 10. 30	関連業界等関係者
学校法人理事	2025. 11. 1～ 2026. 10. 30	教育に対する知見を有する者
専門学校元講師	2025. 11. 1～ 2026. 10. 30	卒業生
第三者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) HPにて公表している (掲載 https://www.shibuya-and.tokyo/outline/disclosure/)		
備考		
第三者評価未実施。 令和9年4月第三者評価機関の受審予定、第三者評価の実施時期は未定。		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 掲載 https://www.shibuya-and.tokyo

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H113311300103
学校名 (〇〇大学 等)	渋谷ファッション&アート専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人田中千代学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		－ 人（－ 人）	－ 人（－ 人）	－ 人（－ 人）
内 訳	第Ⅰ区分	－ 人	－ 人	
	(うち多子世帯)	(－ 人)	(－ 人)	
	第Ⅱ区分	－ 人	－ 人	
	(うち多子世帯)	(－ 人)	(0 人)	
	第Ⅲ区分	0 人	－ 人	
	(うち多子世帯)	(0 人)	(－ 人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	0 人	0 人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－ 人	－ 人	
	区分外（多子世帯）	0 人	0 人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0 人（ 人）
合計（年間）				－ 人（－ 人）
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	-人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が廃止の基準に該当）	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意 欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	0人
計	人	0人	-人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良である
ことについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたこと
により認定の取消しを受けた者の数

退学	-人
3月以上の停学	0人
年間計	-人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	人
訓告	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	-人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	-人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。